

生涯学習概論2023レポート1 回答

1. 日本語の文章

文章は整形しました。書き出しや改行後の字下げ、空白行の削除など。書き出しや改行後の文字下げは「全角1文字分」です。半角やその連続の人は注意のこと。またワードのインデント機能は使わない。読みやすい文章を心がけたい。改行が多過ぎの回答もあった。詩ならば文ごとの改行もあり得るが、レポートは論述文なので意味のまとまりで段落（＝改行）とすること。

自分の経験を語るのので、文体は「ですます」がよい。「私」は不要。日本語は主語がいらない言葉。主語を用いるのは特別な意味を持たせる場合に限る。

2. タイトル

回答の内容が（ひとつに）想像できる、回答の情報が得られること。課題をそのまま記[しる／き]した場合、回答の情報が得られない。よって「思い出に残った授業」「小中学校の授業」など内容が見えないので不適切。中身が想像できないタイトルの文章は読む気が起きないでしょう（教員は仕事だから読むけど）。

3. 内容

客観的な事実と主観的な感想印象の両方を記す。タイトルも可能ならそうする。

4. 文章作成技術

・時制を使い分ける。過去形は経験を意味する（ことがある）。人から聞いたりメディア経由の知識は伝聞形にしてもよい

・繰り返しは避ける＝近くに同じ文字列があるかどうか確かめる

・漢字と仮名の書き分け。接続詞は原則かな書き。漢字が連続して意味がわかりにくい場合は仮名を使う。

例：瀬戸内海航海→瀬戸内海の航海 **こと、とき、なか**

5. コンピュータ文書の作法

機種依存文字は原則使わない。文字化けする（ことがある）。例）Winで①②③がMacでは(日)(月)(火)に。文字コードがUnicodeなら大丈夫だが、Shif-JISは化ける。

ワードのインデントでの字下げは他のアプリにコピペしたら無効になる。

（カッコ）は和文中ならば全角にする。カッコ内が英数字であっても。

ネット公開してもよいですか？ 問題ある人は授業後個別に教えて下さい。

小学校4、5年の図画工作

もともと絵を描いたり、物を作ったりすることに興味があり好きだった為。

中学校で一番楽しかった授業

中学3年時、5月に研修旅行で北海道の長沼に訪れた。長沼ではファームステイとし2泊3日で農家さんの家に宿泊し、日中は農作業を手伝った。私が宿泊した農家さんはトウモロコシとマリーゴールドの栽培を行っていた。初日は周辺を少し観光してから家に訪れたため農作業をすることはなかった。2日目の午前中はトウモロコシの種蒔を行った。苗を作るため畑に直接種を蒔くわけではなく、倉庫での作業ではあったが楽しく行うことができた。午後はマリーゴールドの出荷を行った。1株ずつポリポットに詰め、最終的に道の駅へ出荷した。出荷を行った道の駅で食べたミルク味のソフトクリームが作業後だったためか格段に美味しかった。3日目は朝には出発し洞爺湖へ向かったため作業することはなく、作業したのは1日だけだったが

今までに体験したことのない作業ばかりですごく充実した体験となった。（369字）

今でも思い出に残る授業

小学校6年生の家庭科の授業で晩ご飯の献立を考えて作る授業である。生徒を班分けしてそれぞれ晩ご飯の献立を考えて小学校の近くのスーパーに買いにいき家庭科室で作った。この授業の面白いところは買い物するときの品物を選んだり、お金の計算はすべて自分たちですることだ。予算内で品物をすべて買えるように事前に相場を調べ、持って帰る時のことを考えて内容量を考えながら買い物をするのが小学生の時にはなかなかしない体験だったため楽しかった。また、献立は自分たちの好きなものを作れたのでそれぞれの班の個性が目立って面白かった。一つきつかった点としては自分たちで作ったものを食べてからすぐに給食だった点である。

物語の中の人と同じ気持ちになれた授業

私の印象深い授業は、小学校1年生のときの道德の授業だ。

その授業は、小さなウサギが狭い一本橋を渡るのを怖がり、それを見たクマがウサギを持ち上げて、橋を渡るのを手伝ってくれるお話を題材にしていた。クマは周囲から怖い印象を持たれていて、ウサギもクマは怖いひとだと思っていたが、クマは優しい心の持ち主だったと気づくあらすじだった。

その日は授業参観で授業が特別なものだったので、校長先生が授業に参加していた。校長先生がクマ役になり代表の子がウサギの役になって、実際にそのお話を再現してどんな気持ちになるのかを考えていた。

私は校長先生が怖かったのでウサギ役はやらなかったが、その授業のときの校長先生がすごく優しくかったので、お話のウサギと同じような気持ちになった。物語の中のひとと同じ気持ちになれることを初めて経験したのでとても印象に残っている。

印象に残る授業について

小学校6年生くらいの時に、国語の授業で落語をしたことが印象に残っている。5、6人で班を作り、1つの落語を発表した。私の班は「初天神」という作品を発表した。班の人たちと協力しながら、よりおもしろくなるよう扇子を使ったり、話し方を工夫して作品を作り上げたことはとても印象に残っている。また、私の通っていた学校では朝のホームルームの時間に「素読」の時間があり、様々な論語や随筆などを学んだ。年に数回、素読で学んだ作品を暗記し、近くの武家屋敷などで発表するという授業があった。私自身、人前で発表することは好きではなかったので、この授業は楽しかった思い出はないが、印象に残っている。

私が中学次と高校次に印象に残っている授業について

私には中学時代と高校時代で印象に残っている授業（実習）が3つある。

はじめに、中学時代3年間の英語の授業である。私が在学していた頃の英語の先生は、座学形式の授業ではなく、グループでまとめたり、単語を覚えるまで書き、自分で自由に英文を作る宿題を出すなど非常に先進的な授業形態であった。トークテストなるものも存在し、与えられたお題で、一定時間英語で自由に会話するなど生徒の主体を育てる授業だった。その先生が仰られた「コミュニケーションでは相手の事を分きたい、知りたいという気持ちが大事」という言葉は今でも覚えている。宿題の量が多く大変だったが、今日の私の英語のスキルの根幹は中学時代の授業で形成されたと言っても過言ではない。

次に、中学1年次の総合の授業で受けた環境学習である。ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊氏ゆかりの「科学と自然の散歩道」を整備するにあたり、我々の中学校も区に提案することになった。私は迷わず動物班に所属し、散歩道内で確認できた生物についてまとめた。内容が認められ、区の小中学生環境サミットで発表したときは、とても誇らしい気持ちになったと同時に、環境保全や生態系という分野の複雑で、多様な

面に面白さを垣間見た気がした。今も農大キタサンショウウオ研究会に所属したり、海藻や貝類などの生物に強い関心を持っているのは、中学1年次に受けた環境学習によるところが大きい。

最後に、高校2年次に受けた水産の実習についてである。私が在学していた高校は、実習船を保有しており、年に一度10日ほどの乗船実習があった。2年次の行先は、創立より初となる、神戸広島及び瀬戸内の航海であった。生徒の中で航海当直もあり、私自身も舵を握ったり、海図に位置入れを行うなどした。樫野崎沖では波が高く、何度も嘔吐したが、無事神戸および広島にたどり着いた時の感動はひとしおだった。中でも、夜間の航海当直中に見た瀬戸内海の夜景や星空は忘れられない景色である。皆で力を合わせ、一つの目的地にたどり着くことの素晴らしさを実感した10日間であった。「一人一人が100点の実習を目指すのではなく、全員で100点を目指せ」という乗船教官の言葉は今でも心に残っている。高校3年間数ある実習を行ったが、瀬戸内海航海はその中でも充実していて且つ、大きな意義と成果があった実習であったと思う。

以上が私が小学校から高校までの授業の中で印象に残っているものである。

印象深い特別授業

私は小学校の学活という授業で行った昭和の遊びをするというのが印象に残っている。例えば、めんこや竹馬や竹とんぼ、ブンブンゴマなど様々な昔ながらの遊びをした。ゲームなどのデジタル機器が無い時代の遊びが新鮮に思えたことをよく覚えている。

他に、学校の町探検という授業でスバルの自動車工場に訪れ、自動車が作られる様子を間近で観察したことである。私はもともと自動車に興味が無かったが、工場で鉄の塊が人間や大きな機械によって少しずつ形を変えていき最終的に立派な製品になる様子をみて自動車工場の魅力に引き込まれた。何年経っても忘れない経験になった。

私の最も印象に残っている高校三年生の生物の授業

私の印象深い授業は、高校三年生の時の生物の授業である。その時の先生は大学で魚病の研究をしてきた方であり、私が海洋水産学科に進学することのきっかけになった先生である。その授業では高校三年生という時期を考慮し、共通テストに焦点を当てた内容の講義で大変分かりやすかった。プリントを用いて教科書の内容から重要事項を絞りつつ、単元毎に興味を湧く雑学的知識を一分ほど挟みながら進めていたため、その単元の内容を楽しみながら学習する事が出来た。晴れた日には、校庭に出て実物の植物などを使いながら授業を行い、学業と実生活の関係性を体験する事が出来たと感じている。また、先生は水産関係の知識が豊富であったため、水生生物に関連する様々な話をしてくださった。その時に得た知識が、自分が海洋水産学科に進学してからの糧になっていると感じる。そのため、先生に対する感謝と共にとても印象に残っている授業である。

思い出に残っている授業は中学2年生時の技術の授業である

思い出に残っている授業は、中学校2年生の技術の授業だ。授業内容は、中学生創造アイデアロボットコンテストに参加することを目標として4、5人のグループとなり、ロボットを作るというものだ。ロボットの基本は大会指定のものを組み立て、アームの部分をグループごとに考えて作りながら少しずつ改善していった。私のグループは大会には参加できなかったが、学校で疑似のコースを作りクラス内でゲームを行った。小学校や中学校はグループで行うものが多くあったが、この授業ははっきりとした目的があったことに加えて試行錯誤しながら制作したロボットでゲーをするという楽しみがあったこと他の授業に比べて印象に残っている理由だと思う。

生徒が主体的に学ぶ授業

私が最も印象的だった授業は、高校2年生の時に受けた生物の授業です。この授業では、先生が板書する前に授業で取り扱う内容の番組・動画を見してくれました。視聴した後は、感想を書き気づいたことを書き留めました。私は板書前にワクワクした気持ちになりました。番組で見た内容についてもっと知りたい、学びたいと思いました。番組を使った授業は、私たち生徒に主体的に学ぶ気持ちを与えてくれました。

私は、決してまじめな生徒ではありませんでした。しかし、生物の授業に関しては、自然に予習をして復習をするようになりました。これは最初の生物の授業でワクワクした気持ちになったからだと思っています。主体的に学べるようになっていくと、授業がもっと楽しく楽に感じていくようになりました。このように、学校教育において、生徒が主体的に学べることはとても大切なことだと感じました。これからの時代、情報を活用した主体的教育が求められています。

学校教育の中で印象深かった授業

小学校で印象深かったのは生活科での作物栽培体験だった。1年生ではトウモロコシやサツマイモを育てて収穫し、調理されたものを食べるという一連の流れを体験した。栽培中の除草や水やりなどの必要だが地味な工程は主に大人によって行われていたが、小学生のうちは全工程をきっちり行うのではなく農業は楽しいものであるという刷り込みを行うほうが重要であると思えるので必要な助力だったのだろう。

2年生では個人のプランターでプチトマトを育てた。個人のものだったので自身で水やりなどの世話を行わなければならなかったが、農業や家庭菜園とはそうした苦労があることを実感させる良い機会であったと思える。

ゴールボール

高校生のときにオリンピックの開催が決定されたため、体育の授業でオリンピックだけでなくパラリンピックについても理解を深める目的からゴールボールという競技を行った。ゴールボールとはアイシュード（目隠し）をつけて、鈴の入ったボールを投げ合いゴールに点を入れて得点を競う競技で、視覚障害をもった人を対象にしたスポーツの1つである。その日はゴールボールの元選手が学校に訪問し実際に教えてもらった。目隠しで何も見えない恐怖と音だけを頼りに動くことは難しかったが、パラリンピックの競技は初めてだったのでとても新鮮で、体が不自由でも楽しめるスポーツによって多くの人がスポーツを行えることのすばらしさを実感した日だった。また選手の方と会話する機会はめったにないので、パラリンピックに興味をもち、貴重な体験となった。

小学校から高校までの思い出に残る授業

私が小学校6年生のときに社会の授業で戦国時代の学習をしていた時、学校の資料室に行き火縄銃の実物と同じ重さと大きさのレプリカや刀に触れながら当時の戦い方を学ぶ授業がとても印象に残っています。座学だけでは興味がわからない歴史の授業ですが、自分だったらどのようにして戦うかなど当時と同じものに触れながら様々な感覚を使いながら学ぶことで歴史を学ぶのが楽しくなり、日本史に興味を持てたことにより中、高のテストは常に9割を取ることができました。

中学、高校は特に面白いと思う記憶に残る授業はなく座学しかなかったです。

中学の社会の授業で見た映画について

中学3年生の時の社会の授業を担当していた先生は映画が好きだった。自分は社会自体好きではなかったが、ユーモアのある先生のおかげで社会の授業は好きだった。他のクラスより授業が進むのが早いと、映画を見ることがあった。社会の授業に関するものだけでなく、人として学んでおきたいものなど、とても考え

させられる映画を見たこともあった。

自分が授業内で見た映画の中で印象に残っているのは「永遠の0」という映画だ。戦争の壮絶さを伝える映画で、目をつむりたくなるシーンもあったが社会の授業だけでは学びきれないものが多く、日本人として知っていなければならない事実について向き合うことが出来た。

社会の授業を淡々で行うだけでなく、映画という向き合いやすいものを利用して、生徒が主体的に考えられる状況を作り、様々なことについて触れる機会を設けてくださったのはこの先生しかいなかったため、とても印象に残っている。

無自覚の恐ろしさ

僕が印象に残った授業の一つに中学1年生頃に受けた道徳の授業がある。この時の授業の内容はいじめに関することをグループで話し合いを行いグループの総合的な意見を代表者が授業の最後に皆で発表するものであった。何故そんな授業が印象に残っているのかというと僕は内容ではなくあるグループの代表者が印象に残っているのだ。

僕は彼のことがあまり好きではなかった。僕の描いた絵に下手だと罵ったり、書初めの僕の作品を酷評したり、趣味を話すと他人の趣味を馬鹿にしたらいけないよねと鼻で笑うといったことを幾度かされた僕は彼が不快だった。

そんな彼が言った意見の中で悪口を言わない、人の趣味を馬鹿にしたりしてはいけないと発言したのだ。彼が述べたその部分は彼じゃない別の人の意見なのかもしれないが、僕は彼がそんなことを言うのは相応しくないと思った。

無自覚に悪口をいう恐ろしさを知り自分は気を付けていこうと思うきっかけになった出来事だ。

「LGBTQIA+」

私が、今までで思い出に残っている授業は小学6年生の総合の授業で行われた性の多様性についての授業である。内容は、当時の私が認識していた女性と男性という二つだけでなく、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーなど細かく分ければこれ以上に性別があるという内容であった。今となっては知っていて当然のことであるが当時の私にはとても新鮮な内容であった。そして、この授業をきっかけにクラスメイトの一人が自分はバイセクシャルであるとカミングアウトしてくれた。正直、この授業がなければ私は、その子のことを理解することはできていなかったと思う。この授業は、私の友人を守っただけでなく、世の中にはいろいろな考えの人がいてそれを拒むのではなく理解し受け入れたいと思うきっかけになった授業である。

学ぶ楽しみを伝える授業

自分は小学校5年生、6年生のころの算数の授業が思い出に残っている。自分の学校では算数は確認テストの成績で三段階にクラス分けされていた。自分は算数が得意だったため、授業内で指示された課題が早く終わってしまいとても時間を余らせていた。しかしそれを見ていた当時の担当の先生が次の授業から早く終わった人用に算数の少し難解で面白い問題プリントを用意してくれていた。早く終わった自分たちはそれに夢中で取り掛かり、授業が終わった後の休み時間も使って友達と一緒に解いていた。この授業がなぜ思い出に残っているかというと、自分はこのプリントを通じて算数が好きになったからだ。ただ待たせるだけの授業ではおそらく好きになっていなかっただろう。算数自体の楽しさをうまく教えて自ら学ばせる良い方法だったように思う。

思い出に残る印象深い授業

小学校5年生

私の思い出に残っている授業は何の授業か覚えていないのだが、サケの観察をしたことが思い出に残っている。授業の内容は遡上してきたサケをすぐそばで観察し、その後一人一人がサケについて本やインターネット等で調べ、それらをまとめて本のようにして読みあった。

小学6年生 国語

小学6年生の時に国語の授業の中で自分で物語を作る授業があった。それも原稿用紙5、6枚ほどの長さで何時間もかけて書いたので印象に残っている。

スケートが体育の授業

小学校一年生の体育の授業が、特に印象深かった授業である。その学校では冬になると校庭に氷を張りスケートリンクを作っていた。そこでスケートの授業が行われ、スケート靴を履き滑っていた記憶がある。先生方がリンクの整備をし、生徒たちが当たり前かのようにスケート靴を持っている光景は他の地域からしたら驚きでしかないと思う。地域ならではの体育の授業だったため、印象深かった。

小学校の総合の授業での思い出に残る体験について

思い出に残る、印象深い授業としては、小学校の総合の時間に取り組んだ稲作の授業と、縄文文化を再現する授業、以上の2つを紹介したい。

1つ目は、5年生の時の稲作の授業だ。これは、学校の中にあるいくつかの小さな田んぼで行われた。田植えの準備となる代掻きから始まり、稲刈り、脱穀、粃摺り等を自分たち生徒が育てた米を用いて学んだ。やわらかく水っぽい田んぼに足を取られながらも鋤や鍬で、交代しながら一生懸命に土をかき混ぜて整えた代掻きの作業が特に思い出に残っている。

2つ目は、6年生の時に行った縄文文化を再現する授業だ。主に、弓矢、土器、火起こしの3つを研究するような形で授業は進められた。弓矢に関しては、どのようにすればうまく狙った的を射ることができるのか、どのような獲物を狙っていたのかなどについて話し合い、試行錯誤を重ねた。土器に関しては、教科書などから形、模様を学び、粘土で再現した。また、縄文時代にありそうな麻縄や現代の身近にある道具や材料を用いて、様々な模様のつけ方を研究した。火起こしに関しては、最もシンプルで昔から行われているキリモミ式、はるかに火を起こしやすいマイギリ式を再現した。短い授業時間内ではキリモミ式で火を起こすことが不可能だったため火種を作る際はマイギリ式で行った。当時の私はもっと簡単に、マッチで火をつけるように火を起こせると考えていたため火起こしの大変さを体感したことは強く思い出に残っている。

他に、国語や数学、理科、社会などでも印象深い授業は多くあるが、自ら体験することで学んだことはより強く印象に残っているため2つの授業を紹介した。

映像や感情によって印象に残りやすい授業

私が一番印象深かったと感じた授業は、中学三年生の国語である。当時の国語の先生は過去の戦争や政治について詳しい部分があり、国語の授業ではあったが戦争などについての授業も多々あった。そこで知ることの出来るナチス・ドイツ、アウシュビッツ収容所などについてや満州事変などを知ることが出来た。私は少なからず興味があったことやそこでの差別や扱いについて驚きが多かったこと、難しく情報の多い戦争の歴史について、授業という形で簡易に知ることが出来たため現在も鮮明に覚えている。また、黒板ではなく映像という部分での授業であったため印象深かったと感じた。

私の高校における特殊なカリキュラム

高校 1年次

私の高校では1年次と2年次の夏季に学習合宿が行われる。内容は3日間の間、10時間に亘って授業と自習を行うものであり、主に3年次の大学受験に備えて長時間の学習になれる目的がある。

授業は新しい単元に入る教師や今までの復習に時間を割く教師など、ある程度差はあるものの、一般的な授業と大きな差異はなく、特殊性や印象に残る内容ではなかったものの、環境が特殊であるためか、内容がよく頭に入ったことを覚えている。

自習の時間には自身で用意した自習用のテキストを持ち込み、教師が監督をする中で自習を行うといったものであった。自習を行うテキストに制限はないものの、多くの者が夏季課題として出された学校のテキストを用いていた。休憩時間なども設定され、自習に適したスケジュールが学校側で組まれそれに沿って進められた。

夜などの時間は比較的自由な時間を与えられたが、明日に備え、夜更かしをしようとするものがいなかったことも今思えばかなり特殊であったように思われる。

2年次には新型コロナウイルス感染症の発生により中止となった。

高校 3年次

私の高校では2年次の末から3年次の文化祭まで課題研究というカリキュラムが組まれる。

内容としては、4～5人のグループに分かれ、テーマ及び実験内容や、その方法の設定、結果のまとめと考察まですべてを自由に行える。その分生徒側の負担も大きいですが、強く個性が出るうえ、自身の興味関心に沿った内容の実験が行えるため、将来大学やその研究室での活動の練習になる。

自由度の高さゆえに生徒側の負担も大きいですが、各グループには一人教師がついた。実験のサポートやアドバイスなど様々なことを手伝っていただいたが、実験の結果をまとめる際や、その考察の際にはアドバイスを含め一切の支援がなかったことを覚えている。

最終的に3年次の文化祭にて発表となり、そこに合わせてスケジュールを組むこととなる。そのため実験の失敗や、やり直しには大きなリスクが生じるため、丁寧な作業が求められることも多くあった。

受験期中に行うものとしては負荷になるものも多いが、研究を行う基礎のようなものを養うことには一役買う内容のカリキュラムであった。

記憶に残っている授業

小学校5年生の時に行った学校の敷地内で行った小さな田畑の作成・稲穂の栽培と育ち切った稲を用いた調理実習が記憶に残っている。

田畑の作成にはもともとは学校内に設置されていた小さな段上になっていた小池を稲作が可能になるように生息していた生物などを別の池に移し、一度水を抜き肥料を含んだ泥を作成し、田に移し替え作成した田にクラスごとで分割した場に種稲を植えて翌年の収穫時期に収穫をし、調理実習として栽培した米を調理して6年時に給食の時間に食すというものだった。

作成した稲は無農薬で作成し害虫などの駆除に関してはクラスごとにローテーションを組み学年全体で管理をしていた。

2年生の生物の授業で取り組んだ、カエルと市販の手羽先の解剖の授業がとても記憶に残っている。

カエルの解剖では何人かの班に分かれてカエルの部位ごとに解剖していき、血管や体構造の仕組みについてを学んでいった。また、事前に取り出されたカエルの心臓部位などを用いてインスリンやアドレナリンの分泌による心拍の上昇などについての実験を行った。

市販の手羽先では一人一本用意された手羽先を解剖していき、筋繊維の仕組みや骨格についてをスケッチし、配布プリントに記載されているスケッチや骨格や体構造などと比較し、そこからどのようなことを感じたかや何を学ぶことができたかなどをレポート形式で提出するものだった。

移動水族館の体験授業

私が小学生3年生の頃の総合の授業で、地元の水族館のアクアマリンふくしまの移動水族館の体験授業があった。主に内容としては、水生生物のタッチプールでの触れ合いや、小授業が行われていた。タッチプールではヒトデやウニ、カニなどがいた他、トラザメなどもおり、触れ合いを通してその生物の質感や動き方などを学べた。小授業では、アクアマリンふくしまで飼育されている水生生物の生態や飼育員の仕事の内容についてのものを紹介していた他、当該水族館が研究に力を入れているシーラカンスのことについても紹介されていた。移動水族館がやってきて、学校で授業を教えるというのは初めてのことであったため、新鮮さを感じられ、且つ興奮していたというのもあり、今でも印象深い授業だったと思う。

思い出に残っている授業は感情が揺らいだ授業

私が思い出に残っている授業は高校2年生の修学旅行の一貫として行われた震災学習である。東日本大震災で津波の被害にあった大川小学校に行き、小学生の娘を亡くした男性の話を直接聞いた。男性は涙ながらに当時の話をしてくださった。大川小学校には津波は到達しないと思われていたため、裏山に避難するという案も出ていたが校庭にとどまり続けてしまい、津波に巻き込まれてしまったのだ。私自身、福島県出身であるため、震災の影響を大きく受けた。当時、私は小学1年生だった。帰りの会を行っている最中に地鳴りが起き、気づいたら教室中の棚が倒れ、天井も落ちてきた。校庭の池の水は波立っていた。男性の話を聞いてこの恐怖の記憶が蘇ったのを覚えている。平和はいつまでも続くわけではなく、人間は実際に命の危機になるとパニックになり正しい判断を迷ってしまうと男性は言っていた。旅行などに出かけた際にも避難場所の確認が大切だと改めて学んだ。

他にも、思い出に残っている授業は高校3年生の数Ⅲである。数Ⅱで学習した積分法を活用してドーナツの体積を求める授業があった。私はドーナツが好きのため、楽しみにしていた。しかし、ふと将来ドーナツの体積を求める機会はあるのだろうかと思ってしまった。私は特につまずくことなく問題を解くことができた。数Ⅲの先生は答えが求まると、決め台詞として「鮮やかですねー。」と言う。私たち生徒には何が鮮やかなのかが全くわからなかった。しかし、先生のこの台詞を楽しみにしている自分もいた。ドーナツの授業の時、先生はいつもに増して楽しそうに笑顔で決め台詞を言っていた。60代のこのおじさん先生のことを私は初めて可愛らしいなと思ってしまった。

小学1年生の時にに行った国語の授業も思い出に残っている。1年生の国語の授業では、物語に合わせた作品をクラス全員で1つだけ作る。スイミーという物語で黒板ほどの大きい作品を作ったことが一番思い出に残っている。たくさんの赤い魚と一匹の黒い魚を折り紙で作り、黒板サイズの大きい紙に張り付ける。その後、海を表すために青いスズランテープを周りに貼った。今思うと簡単な作業だが、当時の私は達成感を感じていた。みんなで協力すれば大きい作品も作り上げることができると初めて学び、感動したことを覚えている。

中学3年生の社会の授業も思い出に残っている。戦争の学習をしていると、戦車という単語が出てくる。中学3年生にもなれば戦車がどういう物なのかわかる。しかし、先生は戦車の説明をするために、教卓の上に正座した。何をするのかと思ったら、四つん這いなり、戦車の真似をしながら前進してきた。60代のおじさん先生が全力で戦車のものまねをしている。私たち生徒は大爆笑だった。面白かった授業として思い出に残っている。

中学2年生の家庭科の調理実習も思い出に残っている。私は家庭科係であったため、調理実習の準備を先生と一緒にしなければならなかった。おいしい肉じゃがときゅうりの塩漬けをみんなで作る予定だった。肉じゃがは酒、みりん、醤油、砂糖で味を付ける。私はこれらの調味料を使う量だけ各班の皿に分けるように指示を受けた。私は正しい量を測って分けたと思っていた。料理完成後、いざ食べてみると肉じゃがが甘くなく、とてもしょっぱかった。私は砂糖と塩を間違えて皿に分けていた。先生の確認不足と私のミスが重な

り、今回の調理実習は失敗に終わった。私は、申し訳なく思いみんなに謝ることしかできなかった。

中学一年生の社会科の授業でビンゴや弓矢や火起こし器などの資料に直接触れて体験したことが印象深いと感じた。

私が思い出に残る授業は中学校一年生の社会科の授業である。特に印象的な授業は地理だった。中学校の地理では日本の地域や世界の諸地域などを取り上げ、日本で言えば東海地方や関東地方、世界ではアジア州やヨーロッパ州など地域で分けて学習していた。そこで各地域を学習する前に地域名や山脈、河川などを用いたビンゴが授業の導入として行われた。既に知っている情報や教科書で得た情報を基にビンゴを作成し、くじ引きで当てられた出席番号の人が自分の書いた言葉の中から発表するという形で行われた。ビンゴした上位5名には景品が用意され、ビンゴで扱った地域に関連した食品などがもらえた。

上記以外にも別の授業では社会の教科担当の先生が収集をしていた様々な授業の資料の内の弓矢や火起こし器、民族衣装などを直接触って使ったり、着用したりすることができた。楽しく授業を受けるだけでなく、深い学びに繋がるように感じたため印象に残っている。

私の思い出に残った授業の共通点と、生涯学習において学習者に提供されるべき学びのあり方

以下に私の思い出に残る授業を二つ紹介する。

一つ目は、高校1年の時の美術で、ハードブックカバーを作成する授業が印象に残っている。この授業では、自分の選んだ本に合うような表紙、裏、平をデザインし、自分なりのブックカバーを作成した。私がハードブックカバーをつける本として選んだのは、当時本当にお気に入りの本であり、絶対に良いものを作ろうと意気込んでいた。授業内では、授業の四時限分をデザイン作成に費やし、さらに家でも深夜に及ぶまでそれを考えていた。また、デザインがイメージ通りに描けるように資料集めもした。最終的に自分の納得のいくような素晴らしい作品が完成した。このように非常に頑張って作成した作品は今も宝物で、この授業は私にとって思い出深いものになった。この授業が私にとって思い出になった理由としては、一方的に教えてもらう学習ではなく、自分の好奇心から自分なりの目標を設定し、その目標を達成するために思考し、課題に取り組んだことにあると考えられる。

二つ目は、高校3年生の英語の授業にて、毎回、授業の最初に行なっていたグループワークがとても思い出に残っている。このグループワークでは、先生が難関大学の入試問題から選出した短くかつ難しい文章を3、4人程度でなんとか翻訳しようと試みる、と内容であった。私は、英語の授業自体を特に好きであったわけではないが、その授業におけるグループワークはとても面白かった。また、私がこの授業を面白いと感じた理由を考察してみると、解けなければいけないというプレッシャーを感じる必要がない設問内容であったこと、グループワークにて自分が持っている知識と他の人が持っている知識を合わせることによって問題解決の糸口が見つかるような絶妙な難易度の問題であったこと、自分で一度よく考えてみることによって答えを知りたいという好奇心が働き、勉強が楽しいと思えるような体験であったことが挙げられると考える。

この二つの授業の共通点としては、これらの授業が私の好奇心を掻き立てる内容であったことと、私自身が一方的に授業を聞くだけでなく、自分で思考して目標達成のために精力的に活動したことが挙げられる。以上に紹介した授業のように、学習者に学びを楽しみを感じてもらえるような学習の提供は、生涯学習における学習形態として取り入れるべき重要なことだと考察できる。そして、生涯学習において、学びを提供する者は、学習者自身の好奇心を掻き立てられるためにどのように学びの提供ができるかを考え、学習者に自身で思考させ、その意見を共有できるような場を提供することが重要となる。これにより、学習者が学びを楽しむを見出し、自発的かつ積極的に学びに取り組むことができると考えられる。

ニワトリ、ダチョウ、ウズラの卵を見て食べて観察する

高校1年のの生物の授業の一環でニワトリ、ダチョウ、ウズラの卵の観察をしました。ただ大きさや殻の硬さなどを観察することだけでなく目玉焼きにして食べ比べをしたことでとても印象に残っています。その時 初めてダチョウとウズラの目玉焼きを食べました。ダチョウの卵は他の2つの卵より淡泊な味だったことが意外で思い出に残っています。

中学校にあったサイエンスという科目の授業で、自分の知らない社会の一端を知った

私の通っていた中学校には、3年間に『サイエンス』という特殊な科目があった。この科目は普段は週に1コマ、不定期で2～3コマ連続で実施されており、授業の内容は主にグループディスカッションなどを行い複数人でプロジェクトを動かすことに慣れるというものであった。私の思い出に残っている授業は、3年生の時にこのサイエンスという科目において、プロジェクトの進め方を実際に社会で活躍している人から学ぶことを目的に実施された、様々な業界人との意見交換会である。この会は生徒一人一人が、学校が呼んだ約50人の社会人から無作為に選ばれた2人に話を聞くというものであったが、私はこの授業で自分とかけ離れた生き方をした社会人からその人の考え方や価値観などを直接聞くことで、自分のそれまで漠然と抱いていた社会のイメージが大きく変わったことを今でもよく覚えている。

対大多数の授業ではなく、対1人1人の授業が響くと考える。

中学2年の数学の授業が、思い出に残っている。正直殆どの授業が眠くなるにも関わらずその授業だけは眠くならなかった。それは先生が対クラスの全員というより、1人1人にむけて授業をしていると感じたからだ。そのため自分に向けて話していると感じ集中力が切れないと考えた。

高校2年の微生物学の授業では、先生が3人ついて講義や実験を行うのだが、これもまた1人1人に向き合った授業スタイルだったためとても楽しかった思い出がある。そして併せて自分達が微生物の同定や観察、培養を行うためすごく集中して授業に取り組んでいた気がする。

高校の頃の印象に残った授業

高校1年生の頃の地理の授業が印象に残ってます。授業の内容としてはクラスで男女混合の5人グループを作って旅行会社として日本の地方の旅行プランを立てるという内容でした。予算が10万円で2泊3日という範囲で行いました。まず、それぞれの地方の観光地をそれぞれ調べてそれを共有します。例えば関東地方を選んだとしたらそれぞれの県をみんなで調べて一番理想の観光地の回り方を考えて発表します。最終発表の時には交通費、ホテル代などを込みしてプランを考えます。これをするのはとても大変だけれど予算内に収めることをみんなで考えるのとても面白かったので出来てよかったと思いました。

思い出に残る授業

小学4年生から6年生まで、毎年小学校の近くにある畑に紅花という花を育ててその花びらから染料をつくり羊毛を染めてマスコットなどの商品を作るという授業を行っていた。花卉をつんでから染料にして染めるという工程を全て自分たちで行ったり、花を育てる途中で間引いた花を天ぷらにして食べたりなど楽しかったので思い出に残っている。

小学校の校舎付近の川で行う自然学習

私が思い出に残っている授業は小学生3年の頃の総合科目で行われた川の生物採集である。

私が通っていた小学校は校舎裏に小川が流れており、水辺の楽校という名前で自然に触れる授業が何度か行われてきた。清掃作業や風景画を描く授業で訪れていたが、生物採集が私は最も楽しかった。教員の目の届く範囲で各々好きに生物を捕まえてみようという内容で、虫や木の実、エビや小魚など、目立つような特

殊な生き物がいるわけではなかったが、生き物に触れ、観察する好奇心を掻き立てられる授業だった。

芸術鑑賞会

私の中で思い出に残る授業は、高校の時に毎年あった芸術鑑賞会です。年によって内容は異なり、オーケストラや吉本新喜劇などでした。授業よりも行事に近いですが、個人的にはあまり自らが行かないようなものを経験することができ、いい機会だと感じていました。芸術鑑賞会の魅力はこれだと感じていて、あまり興味がなく、経験することのなかったであろうことを経験することができ、興味を持つ可能性まであるものだと思います。このような効果もあり、私の思い出に残る授業は芸術鑑賞会です。

思い出に残る授業

私が今までの学生生活の中で思い出に残る授業は、中学校三年生の時の数学の授業です。私は三年生になるまで本当に勉強ができず、いつも底辺の成績ばかり取っていました。特にひどかったのが数学でした。ひどいときには十点を下回るような成績を取っていて、そのような状態で私も勉強していても身につかないし面白くないし、親も叱っても意味がないので半分以上諦めていました。しかし、三年生の時に赴任してきた数学の先生は、そのような授業に対して興味をなくしている生徒に対してとても親身だったので、私も次第に数学を初めとするいろんな勉強に興味を持ち始めました。いま考えると、その先生が教えていた授業内容は他の先生と同じような内容でしたが、その先生は生徒の興味を授業に向けることにとても長けていたように感じます。私はその先生のおかげで高校、大学と進学できたので今でもとても感謝しています。

中学3年生の英語の授業

中学3年生の英語の授業で、4人の班を作り、2人2人に分かれて1つのほうの2人組は教科書の上部の説明を読んで文法などを理解し、もう1つの2人組は下部を読んで理解し、その後お互いに2人で説明・質問しあい、さらにそのあと先生が説明するという授業をしていた。

印象的な授業

私の印象に残っている授業の一つ目は中学二年生の数学の公開授業で自転車のギアの回転数にまつわる計算問題を、実際に学校の廊下に自転車を持ち込んでギアがどのように回転しているか観察しながら回答式を考えるとという授業がとても印象に残っています。

二つ目は高校三年生の化学の授業で、分子模型を自分で組み立て、構造を理解する授業です。

上記二つに共通して言えることは座学のみではないという点です。教師からの一方的な授業ではなく、生徒自らが試行・行動できる授業であると意欲的に取り組みやすい授業にもなると考えました。